

身体拘束ゼロ

をめざす院内集会 第2弾

主催：精神科医療の身体拘束を考える会

昨年10月、石川県内の精神科病院で5年前に亡くなった大島一也さん（当時40歳）に対して行われた身体拘束が違法であったとの判断が最高裁で確定した。
一也さんは入院3日後に隔離され、その後、5名で押さつけて注射しようとした際に抵抗したことを「暴力」とされ、その翌日に興奮や抵抗がないにもかかわらず身体拘束された。
そしてその6日後に身体拘束を解除した直後に肺動脈血栓塞栓症で亡くなってしまった。
違法な身体拘束で人が亡くなることは決してあってはならない。

現在、「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」が開催されている。
3月16日の厚労省の検討会では、身体拘束の実施要件を定めた大臣告示に「検査及び処置等を行うことができない場合」という文言を新たに加える見直し案が示された。
このことを受け、当会は3月28日に院内集会を開催した。しかしながらその後の3月31日の同検討会においても、言葉を変えただけで、要件を緩和する提案が変わることはなかった。
「身体拘束ゼロ」への方向性と逆行してしまっている。
一人一人の命と尊厳を守る精神医療を実現するために何をすべきかを共に考えたい。

2022年4月7日(木)

14:00～15:30 (受付 13:30 より)

内 容

石川の大島一也さんの裁判、行われていた医療、ケアの内容を知る
今般の最高裁の判断から現下の精神医療の現状について考える
身体拘束ゼロを目指して何ができるかを考える
現在の厚労省の検討会での議論を振り返り、あるべき方向性を確認する
基調報告 長谷川利夫（杏林大学教授） 他調整中

会 場 申込方法

申し込みの際は
お名前・ご所属等をお知らせください

参議院議員会館 B109 会議室（東京都千代田区永田町 2-2-1）

★入場者数に制限があるため事前の申し込みをお願いします。

【申込先 E-mail/ hasegawat@ks.kyorin-u.ac.jp お名前・ご所属等】

定員を超えた場合は、オンラインでのご参加をお願いする場合があります。

★当日は、参議院議員会館 1F ロビーにて、13:30 より 14:00 まで、通行証をお渡しします。

オンライン (ZOOM)

【申込先 E-mail/ k.masuda@yadokarinosato.org お名前・ご所属等】

★ご希望の方は4月5日までにお申し込みください。前日までに URL をお知らせします。

〔主 催〕精神科医療の身体拘束を考える会

〔後援予定〕特定非営利活動法人 全国精神障害者地域生活支援協議会（あみ）

公益社団法人 日本精神保健福祉士協会

公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）

全国「精神病」者集団

東京都地域精神医療業務研究会 認定 NPO 法人 大阪精神医療人権センター

* 情報保障の必要な方はお申し込み時にお知らせください。